

2024年度アートによる地域振興助成 公募プログラムのご案内

現代アートの持つメッセージ性を軸とし、地域文化を引き継ぎ、
その土地の独自性を活かしたアートプロジェクトを応援します。

応募受付期間：2023年10月1日(日)～31日(火)

ごあいさつ

2023年1月に新たに理事長に就任いたしました、福武英明です。福武総一郎前理事長が提唱していた“在るものを活かし、無いものを創る”を信条に、人々が「よく生きる」地域をつくることを継承するとともに、より私たちの活動を力強く実践し、広く世界に発信してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

昨年4月より105日間にわたって開催された『瀬戸内国際芸術祭2022』は、コロナ禍での芸術祭となりました。訪れる人の数は前回2019年の6割程度にとどまりましたが、その分来られたお一人おひとりに、より深い体験をしていただけたのではないかと思います。アンケートからも、訪れた人の満足度や次回に向けての期待度は、前回に比べて大幅に高まっています。

特に、秋会期の10月には、直島を中心に『SETOUCHI企業フォーラム』が行われ、文化と経済の関係、企業と地域の関係について深く考え、議論していただく機会となりました。また、同じ時期に、大地の芸術祭と連携して、『瀬戸内アジアフォーラム』も開催され、世界中の25人のアーティスト・有識者から、コロナ禍におけるアートの役割について、熱いメッセージが発信されました。

この約3年近く、新型コロナウイルス感染症により、社会も地域も大変閉塞感の強い状態が続いてきました。こうした状況だからこそ、アートの力により、人の行き来、人と人との交流を取り戻し、みんなで一緒に語り、感動し、自分自身を見つめ直す。そのようなアートや文化が本来持っている力を活かし、各島の島民の方々との交流、さらには、フォーラムなどの各イベントを通して、これからも広く発信していきたい所存です。

新型コロナウイルス感染症もようやく終息の兆しが見え、いよいよ地域振興活動も様々な地域で、多彩な手法で再始動しているように感じます。各地域で活躍している皆さまに当財団の助成事業に関心を持っていただき、また実際に助成を受けていただくことによって、各地の力が結集し、新たな創造や知恵が生み出されることを期待しています。

2023年6月吉日



公益財団法人 福武財団
理事長

福武 英明

1 公益財団法人 福武財団について

公益財団法人 福武財団は、2004年に、地中美術館開館を機に設立された「直島福武美術館財団」を前身としています。2012年10月、基本理念を同じくしながら、それまで独自に活動を続けてきた「福武学術文化振興財団」と「文化・芸術による福武地域振興財団」を吸収合併し、新たに「公益財団法人 福武財団」を設立しました。

福武財団は、日本の近代化の流れの中で行われてきた破壊と創造の繰り返しを見直し、「在るものを活かし、無いものを創る」を信条に、人々がよりよく生きる地域をつくること、お年寄りの笑顔が素晴らしい地域をつくることを目指し活動しています。そのために、以下の3つの事業を推進しています。そして、ここでの実践を日本全国、さらには世界に発信し続け、変革への志を持つ人々と共有し、個性と魅力にあふれた地域作りに貢献していきたいと考えています。

1. 美術館事業

美術館活動による地域の活性化



地中美術館（香川県直島）

写真：藤塚光政

2. 助成事業

アートによる地域振興助成および
瀬戸内海地域振興助成



2016・2017年度 文化と芸術による地域振興の助成
成果発表会（2018年実施/新潟県十日町市）

3. 自主・共催事業

文化・芸術を振興する国内外の交流事業
（芸術祭の共催、シンポジウムの開催等自主事業）



自主・共催助成 豊島唐櫃棚田プロジェクト（香川県豊島）

2 福武財団の助成事業について

助成事業では、「地域振興」という共通の目的の下、地域に向き合い、その土地固有の魅力を見出し、地域住民と地域に関わる人々と協働した活動を行う団体・個人を支援します。

活動においては、社会情勢の移り変わりやコミュニティの在り方の変化を捉え、その地域らしい未来を描くことで、様々な表現や手法が考えられます。これまでの通例にとらわれず、創造的で文化的な表現・活動を期待しています。

また、当財団の助成事業では、たとえ採択に至らない場合でも、実りのある機会が創出できるよう、選考過程も重要視しております。応募書類は活動内容が改めて客観視していただけるよう、記入項目が多い設計となっています。

採択後は、過去の助成者と当該年度助成者が集まり、成果報告や各助成先が持っている情報や知識を共有する、情報共有会にご参加いただけます。事業を通じて、知見やネットワークを共有し、相互に協力しあえる関係を形成することで、各地における活力のあふれる個性豊かな地域社会の実現に寄与できることを目指しています。

3 2024年度 アートによる地域振興助成 募集要項

2024年度助成の申請を検討される皆様へ

感染症の世界的なパンデミックにより生じた地域や人との関わり方の制約は、今日のアートシーンにも大きな影響を与えました。コロナ禍以降の応募傾向を注視しても、仮想現実世界でのアート表現、福祉とアート領域の交差と、アートシーンにおけるダイバーシティ化は目まぐるしい変化を遂げています。コロナ禍による行動の制限が緩和されつつある今、アートの力による地域振興が見直され、全国各地域で大小のアートプロジェクトが動き始めている印象です。コロナ禍での経験を踏まえたアートと地域の関わり方や、アートが担う役割の変化を捉えた活動がいま重要になっています。この時代だからこそ考えられる地域やコミュニティの在り方をアートの視点から捉え、新しい展開が生まれる取り組みを期待しています。本助成プログラムは単年度ですが、長期的な事業の中の1年として、活動の一助になればと考えています。

助成の趣旨

日本におけるアートプロジェクトの立ち上げと継続的發展を支援することにより、個性豊かな地域が日本各地に生まれ、発展していくことをねらいとします。

募集概要

対象事業／日本国内で実施される事業で、以下の要件を満たすもの

- 現代アートに代表される新しい表現方法を用いた事業であること
- 歴史・地理・風土・民俗など、地域資源を活かした事業であること
- 地域の振興・発展に資する事業であること
- 地域住民と協働で行っている事業であること
- 継続性かつ発展性のある事業であること
- 営利を目的としない事業であること

※個人の作品の展示など、個人的な活動は対象外です。

応募資格／非営利団体・個人ほか、当財団において適当と認めるもの

[助成回数の制限] 助成回数は通算5回まで。※2019年度より適用

応募資格の区分／これまで当財団の助成プログラム受託の有無によって以下のように区分が異なります。

申請される団体・個人がどちらの区分に当てはまるか、ご確認の上、ご応募ください。

- A. 新規申請者／今までに当財団の助成を受けたことのない団体・個人
- B. 継続申請者／今までに当財団の助成を受けたことのある団体・個人

助成総額／2,000万円

助成金額のめやす／1件あたり、50万円～上限300万円

※上記をめやすに、事業規模に応じて必要な助成希望金額で応募してください。

助成件数／10～15件程度を予定

助成期間／単年度（2024年4月1日～2025年3月31日）

応募方法

応募はウェブフォームを使って行います。電子メール、郵送、FAXでは受け付けておりませんのでご注意ください。応募方法について不明の点がありましたら、当財団までお問い合わせください。

応募手順／

1	メールアドレスの登録	当財団のウェブサイトアクセスし、手順に従ってメールアドレスを登録してください。 ※メールアドレスのご用意が必須となります。
2	申請書類の作成	登録完了メールに記載のURLよりアクセスすると、申請書類作成フォームが表示されます。フォームに沿って必要事項を入力し、申請書類を作成してください。申請書類は作成の途中で一時保存が可能です。
3	申請書類の確認	作成いただいた申請書類はPDFにしてダウンロードすることが可能です。提出前にPDFにて再度確認の上、記入内容にミスがないことを確認してください。
4	申請書類の提出	申請書類が完成したら、応募期間内に「提出」ボタンを押し、提出してください。一度提出されますと、申請書類の変更はできませんので、提出前に必ず内容をご確認ください。 ※提出完了メールに申請書類の控えが添付されます。

受付期間／ 2023年10月1日(日)～2023年10月31日(火) 23時59分

注意事項／ ●電子メール、郵送、ご来所、FAXによる応募は受け付けておりません。

●不明点がありましたら、当財団までご連絡ください。

●応募締め切り(2023年10月31日(火)23時59分)の直前は、回線が混雑し送信できない可能性がありますので、時間に余裕を持ってご応募ください。締切直前の回線トラブル等の理由による特別受付はいたしかねます。

[個人情報の取り扱いについて]

申請書類に記載いただいた氏名、年代、所属機関名、部署・学部、役職、住所・連絡先、電子メールアドレス、事業協力者、プロジェクトメンバーの氏名、年代などに関しては「個人情報保護に関する法律」に則り、個人情報として厳正に管理し、下記の目的に限り利用します。

- 1) 応募に対する選考及び選考結果の通知
- 2) 助成決定後の諸手続きの連絡
- 3) ウェブサイト、広報パンフレットなどでの助成者決定の公表(氏名、所属機関、職名、活動などの概要、助成金額)
- 4) 当財団内管理業務(成果報告、会計報告提出に関連する連絡業務など)
- 5) 当財団主催事業の案内

選考について

採択事業は選考委員会において厳正に選考し、当財団の理事会で承認を得て決定します。選考については、当財団の助成を受けたことのある/なしによって選考プロセスが異なります。

	A 新規申請者	B 継続申請者
選考方法	1次選考：書類選考 2次選考：プレゼンテーション選考 ※事業内容についての発表と選考委員による質疑応答を対面もしくはオンラインで実施します。 ※日時・場所は1次選考通過者にお知らせします。 ※対面で実施する場合、選考会場までの交通費（実費）は当財団が負担します。 ※2次選考を欠席した場合は助成を受けることができません。	書類選考のみ ※申請書類と、今までの当財団助成終了時に提出いただいた成果報告書、提出書類などをもとに選考を行います。
選考結果通知	メールにて通知 1次選考結果：2023年12月下旬 2次選考結果：2024年2月中旬	メールにて通知 2024年2月中旬
選考の観点	下記の観点をもとに選考いたします。 ①応募資格を満たしているか ②当財団の助成趣旨に合った事業であるか ③以下の点で高く評価されるか (プログラムによって観定の項目が異なります)	
	■地域への洞察 活動を展開する地域の独自性や課題をどのように探究しているか。現在の行政区分にとらわれない歴史、風土、民俗に根ざした、地域文化の掘り起こしや発見が期待できるか。 ■新規性 アートプロジェクトならではの新しい表現への挑戦があるか。新しい発想にもとづく社会課題解決への試みがあるか。 ■実現性 これまでの実績に基づいた事業計画実現のためのリサーチが十分行われ、実現性にリアリティがあるか。 ■継続性 単発のイベントではなく、地域に持続的に関わる中期的なビジョンや事業計画があるか。	■地域への洞察 活動を展開する地域の独自性や課題をどのように探究しているか。現在の行政区分にとらわれない歴史、風土、民俗に根ざした、地域文化の掘り起こしや発見が期待できるか。 ■新規性 アートプロジェクトならではの新しい表現への挑戦があるか。新しい発想にもとづく社会課題解決への試みがあるか。 ■実現性 これまでの実績に基づいた事業計画実現のためのリサーチが十分行われ、実現性にリアリティがあるか。 ■継続性 単発のイベントではなく、地域に持続的に関わる中期的なビジョンや事業計画があるか。 ■発展性 今までの活動が積み重なり、次の展開が見えてきているか。そのための事業計画や組織が構築されているか。 ■関係性 地域の様々なステークホルダーと関係性を築いているか。 ■影響力 地域にどのような影響・効果・変化をもたらすかを計画し、それを期待することができるか。

※採否の理由についての照会には回答いたしかねますので、ご了承ください。

助成決定（内定）後のこと

助成金の交付 採択内定となった個人・団体には助成金交付に必要な書類をお送りいたしますので、期日までに提出ください。3月の当財団理事会承認後、正式な採否をメールで通知し、2024年3月末日までに助成金を指定口座に振り込みます。

助成決定者の義務 ■活動成果の報告

助成期間終了後、成果報告書と会計報告書を提出してください。報告書類の提出方法は助成開始後、改めてご案内いたします。

■中間報告会・成果報告会への参加

当財団が主催する、該当年度に助成を受けた個人・団体が集い、相互交流と活動ノウハウの交換を目的とした中間報告会（2024年度開催予定・任意参加）、成果報告会（2025年度開催予定・必須参加）へ参加してください。

■当財団の助成による事業の広報（チラシ、パンフレット、WEBなど）や活動記録には必ず当財団の助成を受けていることを明記してください。

全体のスケジュール

2023年	○	7月下旬	……………	募集要項の公表
	○	7月下旬～10月31日	……………	助成に関するお問い合わせ期間
	○	10月1日～10月31日	……………	応募受付期間 ※10月31日締切
	○	12月上旬	……………	1次選考（書類選考）
	○	12月下旬	……………	1次選考結果通知 ※新規申請者のみ
2024年	○	1月下旬	……………	2次選考（プレゼンテーション） ※新規申請者のみ
	○	2月中旬	……………	2次選考結果通知（助成者内定通知）、諸手続き
	○	3月上旬	……………	当財団理事会にて助成者の承認
	○	3月下旬	……………	助成金のお支払い
	○	4月1日～2025年3月31日	……………	2024年度活動実施期間
	○	秋～冬頃	……………	2023年度成果報告会 ※任意参加
2025年	○	5月中旬	……………	成果報告書・会計報告書提出
	○	秋～冬頃	……………	2024年度成果報告会 ※必須参加

応募方法、よくある質問

応募方法やよくある質問については、ウェブサイトに掲載しております。
ウェブサイトをご確認いただき、ご応募いただけますようお願いいたします。



詳しくは

<https://fukutake-foundation.jp/subsidy/>

福武財団 助成



検索

公益財団法人 福武財団

「Benesse (=よく生きる)」

文化・芸術によって、活力溢れた、個性豊かな地域社会の発展に貢献します。
福武財団は、日本の近代化の流れの中で行われてきた破壊と創造の繰り返しを見直し、「在るものを活かし、無いものを創る」を信条に、人々がよりよく生きる地域をつくること、お年寄りの笑顔が素晴らしい地域をつくることを目指し活動しています。

助成プログラムに関するお問い合わせ・相談先
公益財団法人 福武財団 助成担当

〒761-3110 香川県香川郡直島町2249-7 Tel: 087-892-2550

E-mail: mail@fukutake-grant.jp

※お問合せの際は件名に「助成問い合わせ」とお書きください。